



低炭素杯実行委員長

小宮山 宏

皆さん、「低炭素杯 2015」によろこそいらっしやいました。

2011年、私がかつて総長をつとめた学び舎、東京大学・安田講堂でスタートを切った「低炭素杯」も、ここ、東京ビッグサイト国際会議場にステージを移し、今年で5回目の開催を迎えることとなりました。

この5年間、日本各地で地球温暖化防止、CO₂削減、低炭素社会の構築などにむけて取り組む、学生のみなさん、企業、自治体、そしてNPOの方々など、それこそ何万という皆さんが、自慢の取り組みをもって、この「低炭素杯」に応募していただきました。

そして今年は、全国から千組を超える応募の中から、私がいま立っているこのステージに立つ権利を得るファイナリストは、わずか39団体です。

そんないわば激戦を制して選ばれ、今日の晴れの舞台に立つ数々の取り組み、取り組む人たちの姿を、会場にいらっしやる皆さんもぜひ目に、そして記憶にとどめて欲しいと思います。ここに集う皆さんは、ファイナリストや観客の立場の違いを問わず、地球環境や温暖化の現状などに常にアンテナを張り、関心をもっておられる方々だと思います。今日はステージに登場する温暖化防止に挑む全国のトップランナーの方々の活躍をじっくり観ていただき、ステージ下では対話し、新たな関係を築いてください。

さあ、発表者、鑑賞者、選考者など様々な立場の方々が同じ場を共有し、待ったなしの地球温暖化対策に対する新たな決意と意思を確かめる場、低炭素杯が今年も幕を開けます。

では、「低炭素杯 2015」スタートです。

2015年2月13日(金)



環境大臣政務官

高橋 ひな子

「低炭素杯 2015」で発表された皆様、大変ご苦勞様でした。そして、各賞を受賞された皆様、おめでとうございます。

本日、参加されている皆様が、ここで吸収された全国の様々な取組を地元へ還元され、さらに連携を拡げていただくことを期待しております。

環境省では、昨年3月から「気候変動キャンペーン<Fun to Share>」を推進しています。これは、日本全国で生まれている低炭素社会の実現に向けた技術や知恵を、日本中の皆様で共有し合い、実践していこうという活動です。

「低炭素杯」は、日本中から集まった皆様が、日頃実践されているアイデアにあふれた取組を発表し、参加者同士で共有し合う、まさに<Fun to Share>であり、非常に心強く感じています。

日本には世界に誇れる低炭素社会を実現するための技術がたくさんあります。こうした技術を世界中に広め、世界の気候変動問題にも貢献していきたいと考えています。

また、環境大臣賞を受賞された方々に授与されるトロフィーは、「低炭素杯 2012」で「東日本大震災被災地域貢献活動賞」を受賞された、「特定非営利活動法人日本の森バイオマスネットワーク」が管理している、「エコラの森」の間伐材から製作されたといいました。こうした被災地の活動との連携は、被災地復興にも非常に重要なことであり、心から敬意を表します。

全国各地での低炭素社会づくりに関する活動を学びあい・連携の輪を拡げる「場」をお作りいただいた、小宮山実行委員長はじめ委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして地球温暖化防止活動推進センターの皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、本大会に御参加の皆様のみずみずの御健勝と一層の御活躍を祈念いたします。

2015年2月14日(土)